徳島市民病院だより

徳島市民病院の理念
「思いやり・信頼・安心」

R05/08
35号

〒770-0812 徳島市北常三島町２丁目34番地 徳島市民病院広報管理室 TEL (088) 622-5121 (代表)

地域医療連携会 4年ぶりに開催

7月6日にパークウエストンホテルにて、令和元年7月以来4年ぶりとなる第32回徳島市民病院 地域医療連携会が開催されました。連携医の先生方は51名、当院からは72名が参加しました。

講演会は中野院長による地域医療連携会運営委員会報告で始まり、続いて後東整形外科診療部長の「人工股関節全置換術におけるコンピュータ支援手術」に関する講演がありました。システム導入によって更に正確な置換術を行うことができるようになり、術後のADLはより改善している旨が報告されました。続いて尾形外科診療部長より「特徴のある内視鏡外科手術の取り組み」が報告され、内視鏡手術に対する思いにあふれる講演でした。研修医紹介では11名が紹介され、今後の徳島における医療を担ってくれる先生方であり、大変頼もしい光景でした。

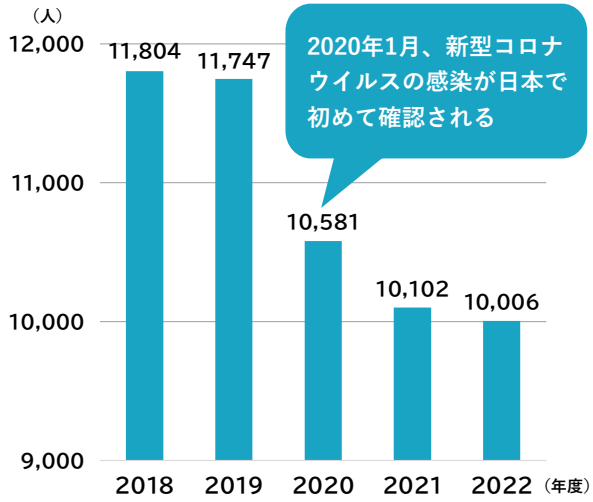
親睦会は安井病院事業管理者、宇都宮 正登徳島市医師会長よりご挨拶の後、宮内 吉男医師会副会長の乾杯で開始しました。久しぶりに会う先生方が多く、直接会って話す事の大切さを感じました。

講演会の模様

懇親会にて

今年からは、親睦会での各科の挨拶を取りやめとしたこともあり、先生方との会話は途切れず板東 智子医師会副会長の一本締めの後も、22時過ぎまで続きました。最近はまたコロナが増えつつありますが、感染に注意しながらこのような会を続けていかなければいけないと実感しました。 (副院長 日野 直樹)

当院への紹介患者数



低侵襲ロボット(ダヴィンチ)支援手術システム導入

6月よりロボット支援手術システムが導入され、7月から泌尿器科でロボット支援前立腺全摘除術が開始されました。当院に導入された装置はダヴィンチ（da Vinci Xi）で、今後、産婦人科・消化器外科・呼吸器外科でも順次、手術導入される予定です。

低侵襲ロボット支援手術は腹腔鏡手術と同様にいくつかの小さな切開部を作り、そこから内視鏡のカメラやハサミ、鉗子を挿入して行う内視鏡手術です。ダヴィンチは、高画質で立体的な3Dハイビジョンシステムを有しているため、術者は肉眼で見るよりも鮮明な画像を見られます。そして、人の手首よりもはるかに大きく曲がり、回転も可能な関節を有する器具（鉗子）を使用し、人ではまねのできない緻密な手術を行うことができます。

導入されたダ・ヴィンチ

手ぶれ補正機能も備えているため手元のぶれがまったくなく、より細かい正確な操作が可能です。結果的に傷が小さく出血の少ない、患者さんの体に優しい手術となり、術後の回復や社会復帰も早いというメリットがあります。

視察に訪れた内藤 佐和子市長と共に(6月30日)

幸い当院では、泌尿器ロボット支援手術を円滑かつ安全に指導できる指導者（プロクター）認定医と、ロボット支援手術における術者の資格を有する者が2名いるため、スムーズにロボット支援手術を導入することができました。今後も多くの手術がロボットで可能になるため、益々発展していくことが期待されます。

(副院長　福森 知治)

リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2023 とくしま

6月3日、がん患者さんやご家族を支援するチャリティーイベント「リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2023 とくしま」が、徳島市のふれあい健康館1階ロビーで開催されました。

前日は大雨でしたが、屋内開催のためか沢山の方が参加されました。多彩な催しを通じてがんへの理解を深め、病気について語り合う優しい空間となりました。当院からは、福森 知治副院長が患者さんへの向き合い方を語る座談会のため登壇されたほか、緩和ケアチームやがん相談支援センターなどの活動について、地域の方へ紹介するポスターを掲示させていただきました。

登壇された福森副院長（画面左から3番目）

がんになっても安心して生活できる社会の実現などを訴え館内を歩くリレーウォークには、がん患者さん、ご家族などの支援者、医療従事者ら約240人が参加しました。中野 俊次院長、福森知治副院長、当院の産業医でもある中瀬 勝則先生も共に歩かれ、この様子は翌日の徳島新聞に掲載されました。

職員の皆さんには、ルミナリエバッグの寄付にご協力をいただきました。今後ともご支援、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

(患者支援センター　長尾 由美)

DMAT 四国ブロック訓練 ～7/15～

災害支援医療チームの合同訓練行われる

市立宇和島病院・回生病院と講師陣

本訓練は四国4県が持ち回りで担当し、今年度は徳島県が舞台でした。当院からは日本DMAT：宮本（隊長）・渡邊・谷崎・谷川・永坂・米本・斉藤、コントローラー：猪子・森田、ほか福森副院長、橋本看護部長等15名が参加しました。

訓練内容としては、7月14日11時頃に線状降水帯が発生し、徳島県内の広範囲で大雨を認め、夕方当院の周辺道路も冠水。7月15日1時頃に当院1階が浸水し、アクセス不能のため孤立する。入院患者のトリアージにて数名の患者を搬出する必要性があり、院内DMAT・職員だけでは限界があるため、鳴門病院（今回のみ当院の上位本部、通常は徳島県立中央病院）へ支援を依頼。指示を受けた県外DMAT（愛媛県：市立宇和島病院、香川県：回生病院）の2チームが徳島市消防局の協力を得て、水陸両用バギーで当院へ駆けつけ、そのバギーにて入院患者の搬送を遂行していく、というものでした。

水陸両用バギーに乗る福森副院長と宮本ER総括部長

最近では大雨による浸水害が各地で多発しており、こういった浸水害対応訓練は徳島県でも初めてのことです。当院としても籠城（ろうじょう）訓練は初めてであり、我々が想定している実働対応の空隙を埋める実りある訓練となりました。

9月30日には内閣府政府訓練が徳島県で行われ、院内災害訓練と同時に実施する予定です。　（患者支援センター　森田 敏文）

市民公開講座 4年ぶりに開催

『高齢者の気になる疾患』をテーマにした市民公開講座が6月24日、徳島市のふれあい健康館で開催され、当院の医師3名が講演しました。コロナ禍の影響で長らく中止となっていましたが、今回4年ぶりに開催されました。

当日は85人の参加者を前に、岸 史子副院長の「早期胃がんの内視鏡治療」よりスタートしました。胃粘膜がんと診断された場合に、内視鏡治療が選択できることや動画を交えた手術手順等について、詳細な説明が行われました。続いて、佐藤 亮祐整形外科主任医長が「手のしびれと痛み」について講演。手指の痛み・しびれがどのように起こるのかを疾患別に解説し、治療法についても紹介していきました。

最後に、福森 知治副院長が「尿の悩み、ありませんか？」をテーマに講演。尿に関する症状について男性・女性別に紹介し、その診断や治療、対策等について分かりやすく説明しました。

久々の市民公開講座開催とあって参加者は医師らの言葉を熱心に聞いていました。

（医事経営課　板東 正起）

講演中の模様

左より佐藤主任医長、岸副院長、福森副院長

徳島の夏の風物詩

4年ぶりに阿波おどりに参加！

阿波おどりは400年の歴史をもつ、徳島発祥の世界に誇る伝統芸能です。当院の阿波おどり愛好家有志で形成する「眉誠連」は例年、地域で開催される阿波おどりに参加させていただき、徳島市民と共に地元の伝統芸能を盛り上げてきました。新型コロナウィルス感染症の流行もあり、最近は参加を自粛してきましたが、令和5年、4年ぶりに「眉誠連」の阿波おどりへの参加が決まりました。

8月12日、中野 俊次病院長や安井 夏生病院事業管理者をはじめとする職員や、その家族ら約80人が集い、当院1階ロビーと熱気で包まれた演舞場へ踊り込みました。楽器隊の奏でる二拍子リズムは非常に力強く、自由かつダイナミックな「男踊り」と、上品かつ艶やかな「女踊り」を披露しました。

地元の伝統芸能を盛り上げる一助になるとともに、市民の皆さんへ「活気のある徳島市民病院」を印象づけることができました。　（連長　松村 圭一郎）

研修医日記　リレー企画

昨年度からお世話になっております、研修医2年目の古谷 光平と申します。周りの先生方やスタッフの皆さんに丁寧に教えていただきながら、学びと感謝の絶えない日々を送っております。頼もしい同期達とともに、より良い研修にしていけたらな、と思っております。

このような枠を頂戴しているということで、恐縮ではありますが自己紹介させていただこうと思います。出身は兵庫県南部の加古川辺りで、須磨学園高校を卒業し、徳島大学を経て市民病院に来ました。中学・大学は軟式テニス部、高校では（運動部禁止ということもあり）放送部でした。テニス自体は父と姉2人の影響で始めましたが、元々運動がそこまで得意ではなく、結果下手の横好きという感じでした。それでも、大学まで続けた今ではちゃんと一つの趣味にはなっていたのかなと思います。

実家には2匹の白と茶のミニチュアダックスがおり、帰るたびに全身毛まみれ、顔はよだれまみれになるくらい全力でじゃれつかれますが、それが楽しみで帰っているところもあるので犬－自分でwin－winな関係を築けております。すごく癒される反面、疲れる都度、彼らに会いに行きたくなるのが困りどころです。

研修が始まって早くも1年半が過ぎ、まだまだ分からないことも多く、ご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、不器用ながら少しでも貢献できるよう頑張りますので、これからもご指導ご鞭達のほど、よろしくお願いします。

（初期臨床研修医　古谷 光平）

平素より大変お世話になっております。研修医の原将巳と申します。他の研修医にならって、自己紹介と抱負のようなものを書いてみようと思います。私は徳島生まれの徳島育ちで、城南高校出身です。徳大の医学部入試に失敗し、歯学部に入学するもしぶとく受験勉強を続け、2年生の時に歯学部を退学して医学部に再入学しました。

大学では歯学部時より塾講師のアルバイトで数学を教えながら、空いた時間で麻雀を嗜んでおりました。私の人生で長く続いたものは麻雀だけです。以前は年間2000半荘（ハンチャン）※程打っており、このご時世なので打つ機会は減りましたが、私の唯一の趣味です。麻雀の面子が足りない際は、是非お声掛けください。　※ 麻雀のゲーム単位のこと

昨年4月より徳島市民病院での研修開始となり、慣れないことばかりでご迷惑をおかけしながらも、なんとかやっていけております。これも皆様がこのヒヨッコを助けてくださっているおかげです。私も、少しでも皆様のお役に立てるよう、精進していく心積もりであります。

最後になりますが、私の好きな言葉を紹介させていただこうと思います。ロシアの文豪、トルストイのアンナ・カレーニナの冒頭文ですが、「幸福な家庭はすべて互いに似通っているが、不幸な家庭はどこもその不幸の様を異にしている」とあります。これは医療の世界でも、当てはめることができるのではないでしょうか。病気を持つ患者さんにはそれぞれ違う背景と苦しみがあります。だからこそ、一人一人に寄り添えるような医師になりたいと思っております。今後も何卒よろしくお願い申し上げます。

（初期臨床研修医　原 将巳）

編集：徳島市民病院 広報管理室　〒770-0812 徳島県徳島市北常三島町2丁目34番地　TEL: (088)622-5121（内線 2333）